

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年10月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	先月の醤油出荷量は前年同月に比べ大幅に減少した。18年度の累計でもやや減少気味であり、依然として低迷が続いている。
	織物業	先月と同様、相変わらず厳しい状況で推移している。
繊維・同製品	ニット生地製造業	これまで堅調に操業していたが、多少陰りが見られるようになってきた。
	その他の織物業	10月度は昨年10月に比べ15%減の大幅な売上落ち込みとなった。8,9月も過去に無い落ち込みとなり相変わらず厳しい状況が続いている。景気の回復は一向に感じられず、今後、業界がどのような方向に向かうのか予断を許さない厳しい状況が続きそうである。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	原木の入荷量は昨年同月に比べ順調に増加している。ただ販売価格はわずかながら減少している。
	製材業、木製品製造業	10月度の売上は、引き続き価格が定まらず、仕入と販売双方の価格が変動を続けている。
窯業・土石製品	砕石製造業	10月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比アスファルト合材向け出荷は10.7%減少したものの、生コン向け出荷は15.1%増加となり、全体出荷量でも11.5%の増加となった。これは上期落ち込みの大きかった金沢地区生コン向けの出荷が伸びた事が全体出荷量をプラスに押し上げたものと考えられる。
	陶磁器・同関連製品製造業	10月には九谷焼素地の見本市を開催した。これからもイベントを開催するにあたり、その準備で忙しい日が続いている。
	生コンクリート製造業	10月の県内の生コンクリート出荷状況は、前年同月比109.1%とプラスの出荷量となった。地区状況は、金沢、鶴来・白峰、能登がプラスとなったものの、南加賀、羽咋・鹿島、七尾地区は2ヶ月連続のマイナスで推移した。官公需や民需に関しては、官公需は相変わらず厳しく前年同月比96.2%となったが、民需は好調で123.3%と3ヶ月連続のプラスで推移した。
	粘土かわら製造業	天候の良い日が続いたので葺替工事が多く出来た。新築物件も多く昨年より出荷量が20%以上も増加となり、増産分が出荷となる。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	先月と同様に活況が続いている。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様で特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	業況には大きな変化は見られない。現在、日本鋳物協会では明日を見据えた技術開発やものづくりの高度化に取り組んでおり、本県業界も企業経営と技術力を再確認し、次のステップに備えていかなければならないと考える。
	鉄素形材製造業	景況は順調に推移している。ただし、操業度において低下傾向にあるように思われる。活発に推移してきた受注が下降気味となり受注数も減少したためと思われる。
一般機器	繊維機械製造業	当組合の主要取引先である繊維機械(織機)メーカーの生産は平成19年前半まで好調が続く見通しである。工作機械、建設機械関連の仕事も引き続き好調が続いている。
	プレス、工作機械	ほとんどの企業がフル生産の状態にある。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	自動車関連や電子部品関連等は依然好調に推移している。
	機械金属、機械器具の製造	関連業界の好調な動向を受け、高水準で安定した操業が続いている。新規投資の設備機械も順次稼働し始めており、一層の効率化の向上が図られつつある。
その他の製造業	漆器製造業	10月の近代漆器市場は、11月に行う素地原料の値上げの影響から多少の駆け込み需要があったが、前年対比では横ばい程度と見られる。また木製漆器組合のカタログの売上は前年対比10%弱の伸びを見せたが、こちらも原木の仕入れ価格が上昇傾向にあり、採算性が悪化している。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年10月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	合繊維物の衣料関係は引く手数多の状態であり、工賃がアップしているとの声が出ている。
	農畜産物・水産物卸売業	10月は売上高の増加に期待していたが、ほぼ横ばいとなった。ただ今年度の累計は前年同期に比べてやや増加している。
	一般機械器具卸売業	石川県の新築住宅着工数に占めるオール電化住宅は、全国平均より大幅に高く70%に迫る勢いである。IH、エコキュート、蓄熱暖房機の御三家は必ず提案され、何れかが採用されている。今後は既設住宅へのオール電化推進が鍵となる。
小売業	燃料小売業	冬に向けての目玉となる灯油販売は気温の低下が無く不振。9月よりガソリンや軽油の価格が3円前後軟化したにもかかわらず販売は不振。
	機械器具小売業	10月に入り、一部メーカーの合展開催も有り、液晶・PDPテレビ、DVD等の売行きが好調で、前年同月に比べ125%の伸びとなった。これは昨年は11月に開催された合展が、今年は10月に行ったメーカーがあり、その分が寄与したものである。11月以降は年末商戦に期待したい。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	先月と同様に10月上旬までは順調に売上が推移したが、中旬から下旬にかけて天候に恵まれた影響で、平均気温が2~3 上昇し、防寒商品の販売に苦戦を強いられた。その結果、対前年同月比94.5%で推移した。
	鮮魚小売業	10月は全体的に入荷量も少なく、市場内は閑散気味であった。11月はカニの解禁月でもあり活況に転ずる事を期待している。
	他に分類されない その他の小売業	10月度の前半は順調に売上増となったが、後半は平日において売上減となった。しかし昨年や一昨年と比べると売上は上回っている。
	百貨店・総合スーパー	10月の売上の予算比は81.1%で前年比85.0%であった。このような数値になった主な原因として2店舗ある呉服店の店外催事の売上が昨年に比べ著しく悪かったという事と、10月は天候が良く、気温が高かったため冬物衣料関連の動きが鈍ったという事が原因であると考えられる。
	米穀類小売業	消費者は新米に対する意識(知識)が低いため、業界として消費者に対し上手にアピールをしていかなければならない。
非製造業	商店街	
	近江町市場	旅行者が目立つようになってきた。
サービス業	尾張町商店街	あまりに天候が良く、連休などの祭休日に恵まれると、人は外へ出かけて行ってしまふのだろうか。先月に引き続き街の中は人通りが少なく、一部の観光地に集中しているように見受けられる。
	旅館、ホテル	各種学会やスポーツ関係と一般観光客の入込があり、昨年に比べ各施設は増加傾向にある。好天と秋の観光シーズンに入ったため個人客も増加している。
	旅館、ホテル	ますます、消費者の宿泊サービスやレジャー全般の多様化が進んでおり、特徴付け(得意とするサービスの磨き上げ)がより求められている。
	自動車整備業	継続検査実績車輦数は、前年同月比1.6%増、前月比0.1%減となった。新規検査状況は、前年同月比6.0%増、前月比13.3%減となった。来年3月までの間で前期分の登録者の前年割れを回復できるか注視したい。
建設業	旅館、ホテル	全般では景気回復と言われるものの、観光産業への好影響は鈍く遅い。更に近年では、消費者の消費志向の多様化が進み、宿泊施設に対する価値観の捉え方からこれまでにない多くの施設がライバルとなり、特に旅館には厳しさが強まって来ており、楽観は許されない状況にある。
	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比0.8%減となった。内訳は民間土木6.5%減、民間建築27.7%増となり、民間全体では21.1%増となった。公共土木は14.4%減、公共建築は22.8%減となり公共全体では15.7%減となった。公共関係は6ヶ月連続でマイナスとなっており、厳しい状況が続いている。
	一般土木建築工事業	好景気感の業種により全く異なっており、建設業は官公庁を主体に受注してきた中堅業者が一番痛手を受けており、公共工事の削減による受注競争の激化に加え、資材や燃料費等の高騰が企業経営を圧迫している状況である。
	板金・金物工事業	仕事量はあるのだが単価が安い。リフォーム関係の仕事が多く大工仕事は減少している。材料費の値上げが収益の悪化を招いており、依然として厳しい。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年10月分)

運輸業	一般貨物自動車運送業	軽油価格の値下げが行われたが、以前から続いた値上げ分の運賃転嫁が進まず、運送業界はいざなぎ景気を越える好景気とは全く縁が無く厳しい状況が続いている。
	一般乗用旅客自動車運送業	県内のタクシー業界は、新規事業者の参入や既存事業者のタクシー増車競争が影響して利用者の増加が見込めない中、各社の営業収入は前年度を上回る事のない低落傾向が続き、経営は依然として厳しい。
	一般貨物自動車運送業	軽油価格はわずかに下がっているが、価格にばらつきが見られる。また新規運転手採用難の傾向が見られる。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等